

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500720		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームゆかりの杜	ユニット名	なつめ
所在地	仙台市泉区南光台1丁目5番18号		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 12 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループの理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」のもと、一人ひとりがやりたいこと、好きなこと、できることを大切にしながら、ともに楽しみながら毎日をご過ごしています。ご利用者と一緒に食事を作ったり、洗濯をしたり、洗濯物をたたんだり、掃除をしたりといった家事を職員と一緒に、負担にならない程度に行っていただき、役割を感じていただけるよう配慮しております。一人ひとりの想いに耳を傾け、できる限りご利用者のご希望に沿った想いの実現の為、毎日の対話を大切にしております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム目標「笑顔と笑い声の絶えないグループホームゆかりの杜」を実現するため、入居者とゆたかな生活を共に「創り、築こう」を掲げ、会話を通して楽しく暮らせるよう実践している。入居者一人ひとりを敬い、「出来ないから」ではなく「出来ること」を増やす工夫をし、「出来た」喜びに繋がることを大切に支援している。生活の流れの中で現有能力を活かし、身体機能の維持と重度化防止に取り組んでいる。職員は日常生活や行事などを通して、入居者から笑顔で優しい感謝の言葉は業務への励みとなっている。目標達成計画は「運営推進会議の書面報告に対して、メンバーから意見を聞く」「災害時における地域との協力体制」は達成している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームゆかりの杜)「ユニット名 なつめ 」

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、なじみの環境、地域での生活を支えることを意識し、さらに「楽しむ」事を目標に継続しています。その人と何ができるかを考え、一緒に楽しめることを常に考え、職員と共有しています。	法人理念や社是、ホーム目標を半年毎に話し合い、ケア等の気づきを実践に活かしている。個々の趣味や出来る事、やって見たい事等、その人らしく、笑顔と笑い声の絶えない楽しい生活が出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。昨年度はコロナウイルス感染対策のため、地域で行われている行事への参加は出来ていませんでしたが、少しずつ参加出来るようになってきました。地域清掃や公園の花壇手入れ、回覧板、近隣公園で犬の散歩されている方のお話等で地域の情報を収集しています。	町内会の回覧板や地域清掃等で情報を得ている。ホーム周辺の散歩や近隣のコンビニへの買物等で、地域住民と挨拶を交わすなど交流している。コロナ禍で自粛しているが、行事等に双方交流できるよう話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナウイルス感染予防対策の為、現在は中止していますが、入居の問い合わせの際や直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症に対しての対応方法や助言、相談には都度対応させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナウイルス感染予防対策の為、開催できていませんが、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等についてを書面でお伝えしています。開催できる状況になったら再度実施していきます。	書面で年6回開催している。ホームから生活状況や行事、外出、看取り、外部評価等を分かりやすく報告している。メンバーから地域行事やコロナ感染状況、地域包括の研修会等の情報を貰い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はまだ開催できていませんが、書面等で事業所の取り組みの報告をするとともに、助言をいただいています。また、可能な限り地域主催のケア会議に出席して関係性を築くよう心掛けています。	介護認定更新や介護事故報告、生活保護、成年後見制度等を相談し助言を貰っている。認知症初任者研修や認知症リーダー研修等に参加している。地域密着型サービス集団指導資料等を通して、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束防止委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境整備をしています。	身体拘束緊急性3原則や事例11項目、身体的機能の低下、精神的苦痛等の意見交換をしている。不適切と思われる声がけ等を話し合い、「どうされましたか」等、職員間で具体的な声がけ等を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努め、気づいた時や、時間を決め定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	高齢者虐待排除マニュアルを用いて、虐待の種類や通報義務、気づきシートで勉強会を実施している。着替え時や入浴の際にあざ等がないか、言葉による行動制限がないか等を確認し合い、虐待未然防止に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項など、十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得いただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、日頃からのご家族との信頼関係の構築に努め、率直な意見をいただけるような関わりを大切にしています。意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、ミーティング等を行い、改善に努めています。	家族からの要望等は、職員間で話し合い個々に対応している。食事量の相談を受け「刻み食」から「ミキサー食」に変更した。入居者毎の「ゆかりの杜だより」は、本人の表情を見ることが出来ると家族から好評である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートや事業所内ミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。	管理者や職員は、気軽に話し合える環境である。オンライン面会やケアに関する事、備品購入等の提案は、改善に向けて話し合い反映している。個々の意見等は尊重し実現することで、職員の働く意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける制度があります。(ミミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ)また、ご利用者と一緒にイベント企画を行い、かつワークライフバランスを意識しながら職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようになっております。また、新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、嚥下状態が低下された方、ADLが低下された方のリハビリに関してなど、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、知識をもらい、評価をもらったりする機会を設けています。	地域包括支援センターや居宅介護事業所、福祉用具事業所等と情報交換し助言を貰っている。地域ケアよろず懇話会「宮城県の若年性認知症施策の取組み」講演会にオンラインで参加し、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご本人・ご家族を含めた事前面談を通じて、ご本人の想いや考えを聞き取り、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう、日々の関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に耳を傾けるよう努めています。また、信頼関係構築を心がけ、ご家族との関わりをさせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、居宅介護支援事業所職員や利用していた施設・病院などからの情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。何よりも、ご本人とご家族が安心して生活して頂けるように、必要なサービスについて相談を重ね支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の体調を考慮しながら、ご本人がしたいことや長年行ってきた習慣を変えることなく行えるような環境を整え、役割やメリハリを持った生活を送れるようにしています。今までの経験や得意な事を活かして他の入居者や職員に様々な事を教えて頂きながら、生活しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントをご利用者と一緒に計画・実施し、ご家族には写真でお伝えしています。また面会時や電話等で生活のご様子を伝えたり、毎月「写真入りの手紙」をお届けしています。LINEやZoomでの面会も可能である事をお伝えして、ご希望があった際は実施していました。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防対策を行いながら、毎年ご家族と行っていた母の日のお祝いや誕生日イベント等、何度もご家族と調整しながら実施できました。	家族や親戚、友人等の来訪や電話でのやり取りは、入居者の楽しみに繋がっている。家族と馴染みの台原森林公園へドライブに出掛けしている。行きつけの美容室やかかりつけ医受診の際、馴染みの方と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動・言動から、ご利用者同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通じて、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入ってお互いの事を理解し合い、繋がりが持てるような関わり大切に支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者のご家族と折に触れ、電話連絡を行ったり、散歩の途中で寄って下さったご家族と昔話をしたり相談を受けたり、関係性の継続を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや、会話の中からご本人の想いを汲み取れるように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報を職員間で共有し、その方らしい生活が送れるよう、支援をしています。	入居者一人ひとりの思いを汲み取り、自分で出来る事やしたい事等を実現できるよう支援をしている。「楽しく過ごしたい」思いは、「好きな音楽を聞く時間を作る」等、その人らしく笑顔で楽しく暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴等を把握し、ホームでの生活に取り入れられるよう、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・難しいことの把握を行い、できない所を補うように努めています。その方の過ごし方も、季節や心身の状態によって変化が見られるので、その際は生活記録や申し送りで伝達し、職員全員が把握できるよう努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を立てています。ご自分の想いを上手く表現できない方の介護計画については、特に情報収集に努め、ご本人の立場に立ち計画を作成し、モニタリングを行っています。	入居者の視点に立って、現状に即した必要な支援を盛り込んでいる。「新しい環境に慣れ、安心して生活を送りたい」要望は、職員と一緒に家事や入居者と話が出来るよう、食席に配慮する等を盛り込み作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子について細かく記録し月1回のミーティング時に日々の様子を話し合い、ケアの工夫、ご本人の状態の変化があれば、職員間で情報を共有し、介護計画に反映させ、ケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせた対応(買い物、通院、個別外出など)を行っています。また、主治医よりリハビリなどの必要性が認められる場合は、デイケアや訪問マッサージの利用を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板などから地域行事を把握しています。また、町内の清掃活動にご利用者と一緒に参加していただけるよう日頃よりご近所を散歩する際は住民の方とコミュニケーションを図っております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れたかかりつけ医との関係性を大切にしながら、ご家族の要望や状況に合わせて付き添い支援を行っています。また、ご家族が受診の付き添いを行う時は受診報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。	入居前のかかりつけ医受診は1名で、他の入居者は月2回の訪問診療である。訪問診療医や協力医療機関の看護職員、訪問看護師と24時間連携体制が整っている。専門医受診は、必要に応じて支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について看護職員との相談体制を整えています。急変や体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し共有を図っています。また、夜間は訪問看護のオンコールも利用しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提出し、普段のご本人の様子を病棟の担当看護師に直接お伝えして、入院生活を安心して送れるように関係づくりを行います。現在は面会に行けない状況ですが、退院日が決定されたら、病院相談員と連携し、退院に向けて準備を行い、入院中の状況等の情報はユニット内で共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所でできる事を検討して対応を行っています。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からご本人の昔や想いを伺うようにしています。	看取り介護は主治医の指示に基づき、多職種間の連携でケアに努めている。主治医や訪問看護師と24時間連携体制を構築しており、家族や職員の安心感に繋がっている。家族の宿泊に対応し、家族と共に安らかに最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や事故発生時の応急手当の研修を行っています。また定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して看護師や経験年数のある職員より、対応について確認、AEDの使い方についても定期的に研修を行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを行っていきます。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。消防署へ通報等の手順を確認し実施している。身体状況に応じた避難誘導方法等の意見は、次に活かす取組みをしている。近隣住民等へ見守りの協力要請をしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その時々のご利用者に合った対応や声かけを行っています。対応については、情報共有ノートで共有する、毎月のミーティング時に振り返りの時間を設けています。	苗字か名前に「さん」付けで呼んでいる。これまでの生活習慣を大切に、人格を尊重し「出来る事はしてもらう」等、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けています。笑顔で話を聞く、命令口調にならないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中からご利用者の想いや希望を把握するように努めています。把握した希望に関しては、可能な限り希望に沿うように職員間や必要に応じてご家族にも協力してもらいながら、実現できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを尊重し、その方が希望されている事を優先して支援を行っています。また情報を職員間で共有し、ご本人の負担にならないような生活が送れるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時の写真を持参して頂き、その方が好まれていた髪型や服装にできるようにしています。また、季節に合わせてその方に合った衣服と一緒に準備したり購入するなどの支援を行っています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にはその方が好んで召し上がるメニューを伺いご用意し、皆さんでお祝いをしたり、季節の物を取り入れ、一緒に準備から片付けまでを行っています。イベント食(父の日、母の日、芋煮会等)企画から実行までを入居者の皆さんと行いました。	芋煮会は、入居者の希望で仙台風と山形風の2種類作り、味の食べ比べで盛り上がった。おせち料理やおはぎ、ちらし寿司、オムライス等が喜ばれている。おやつや白玉ぜんざい、干し柿等を楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾病や体重を考慮し、必要時は栄養士に相談をしながら、食事や水分量の調整を行っています。状況に合わせて食事形態を変更したり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。必要に応じてはその方に合わせて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄サインを見逃さないようにケアにあたっています。排泄のリズムや尿量も職員全員で把握できるよう情報共有し、お一人お一人に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。	本人の出来ることを職員間で共有し、適切な声掛けや誘導、介助、見守り等で、トイレで排泄出来るよう支援している。夜間は安眠を妨げないように、パッドを変えたり、ポータブルトイレを置く等、個々に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら原因を探し、個々の状況に応じた予防に努めております。またその方の状況に合わせてながら薬調整など主治医との連携にも努めております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望に応じて入浴を行っています。夜間浴も実施しています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、その方が傷つかないように配慮を行いながら、気分よく入浴できるように入浴支援を行っています。入浴剤等も使用しその方が楽しめる場を提供出来るよう努めています。	本人の生活習慣等に配慮し、週2～3回で午前・午後入浴できるよう、個々の要望に応じた支援をしている。夕食後に入浴する方もいる。リフト浴があり、浴槽を跨ぐのが難しい方でも、湯船に浸かり気持ち良く入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中にどんなケアが必要かを考えながら、安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には、傾聴し、安心できるよう声掛けを行うと共に、入眠しやすい環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば連絡ノートに記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、大きな症状の変化等がないか観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人がこれまで歩んできた人生経験を活かし、得意なことや楽しみごとを大切に生活できるように支援しています。家事を一緒にやり、それぞれが役割を感じていただけるような支援を行っています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防対策を行いながら、少しずつですが、外出の機会は増えてきました。少人数でのドライブをはじめ、個別対応で近所への散歩や買い物へ一緒に行くなど、ご本人の希望を伺いながら実施しています。	ホーム周辺の公園まで散歩やコンビニへ買い物に出掛けている。四季折々に合わせて、東照宮へ初詣や安養寺公園へ八重桜、加茂神社へ紅葉狩りに出掛け、自然と触れる支援に努めている。本人の希望で松島へ出掛ける等、個別支援に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際、必要額を所持し、希望に応じてご自身でお支払いいただいています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に品物を選び、その場でお支払いの内容を説明するなど、お金を使うことに対する支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。手紙についても、一緒に便箋を購入しにいき、知人への手紙のやりとりをサポートしています。また、LINEやZoomを使用して県外にお住まいのご家族と面会を行っています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が好まれる音楽やご家族が準備して下さったDVDを上映し皆さんで楽しめる姿が見られています。また、コロナウイルス感染予防対策の為、常時換気を行っています。暑さや寒さを不快に感じないように、冷暖房の調整も行っています。ホールの壁には季節ごとの設え設置。設えの作成は入居者と一緒にしています。	リビングは照明や温湿度管理等に気を配り、居心地よく過ごしやすい環境に努めている。壁には行事の写真や職員と一緒に作った手づくりカレンダー等を飾っている。季節毎に鏡餅や雛人形、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾り、四季を感じるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や相性を考慮し、気の合う方同士でテーブルを囲み、一緒に過ごせる空間に配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、新しいものではなく、今までご自宅で使用していた使い慣れたものをご持参いただいています。その方の心身状態の変化に伴い、安心して居室で過ごせるような工夫を随時行っています。	使い慣れた家具や好みの生活用品を持ち込み、家族の写真を飾る等、落ち着いて過ごせるよう工夫している。身体機能に応じて、安全に生活できるよう、家具等の配置に配慮している。職員と一緒に掃除する方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫したり、居室ドアやトイレ等に表札を掛けることにより部屋がわかるように工夫しています。ご本人の力を活用できるようサポートを行い、個別に支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500720		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームゆかりの杜	ユニット名	あやめ
所在地	仙台市泉区南光台1丁目5番18号		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループの理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」のもと、一人ひとりがやりたいこと、好きなこと、できることを大切にしながら、ともに楽しみながら毎日をご過ごしています。ご利用者と一緒に食事を作ったり、洗濯をしたり、洗濯物をたたんだり、掃除をしたりといった家事を職員と一緒に、負担にならない程度に行っていただき、役割を感じていただけるよう配慮しております。一人ひとりの想いに耳を傾け、できる限りご利用者のご希望に沿った想いの実現の為、毎日の対話を大切にしております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム目標「笑顔と笑い声の絶えないグループホームゆかりの杜」を実現するため、入居者とゆたかな生活を共に「創り、築こう」を掲げ、会話を通して楽しく暮らせるよう実践している。入居者一人ひとりを敬い、「出来ないから」ではなく「出来ること」を増やす工夫をし、「出来た」喜びに繋がることを大切に支援している。生活の流れの中で現有能力を活かし、身体機能の維持と重度化防止に取り組んでいる。職員は日常生活や行事などを通して、入居者から笑顔で優しい感謝の言葉は業務への励みとなっている。目標達成計画は「運営推進会議の書面報告に対して、メンバーから意見を聞く」「災害時における地域との協力体制」は達成している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームゆかりの杜)「ユニット名 あやめ 」

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、なじみの環境、地域での生活を支えることを意識し、さらに「楽しむ」事を目標に継続しています。その人と何ができるかを考え、一緒に楽しめることを常に考え、職員と共有しています。	法人理念や社是、ホーム目標を半年毎に話し合い、ケア等の気づきを実践に活かしている。個々の趣味や出来る事、やって見たい事等、その人らしく、笑顔と笑い声の絶えない楽しい生活が出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。昨年度はコロナウイルス感染対策のため、地域で行われている行事への参加は出来ていませんでしたが、少しずつ参加出来るようになってきました。地域清掃や公園の花壇手入れ、回覧板、近隣公園で犬の散歩されている方のお話等で地域の情報を収集しています。	町内会の回覧板や地域清掃等で情報を得ている。ホーム周辺の散歩や近隣のコンビニへの買物等で、地域住民と挨拶を交わすなど交流している。コロナ禍で自粛しているが、行事等に双方交流できるよう話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナウイルス感染予防対策の為、現在は中止していますが、入居の問い合わせの際や直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症に対しての対応方法や助言、相談には都度対応させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナウイルス感染予防対策の為、開催できていませんが、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等についてを書面でお伝えしています。開催できる状況になったら再度実施していきます。	書面で年6回開催している。ホームから生活状況や行事、外出、看取り、外部評価等を分かりやすく報告している。メンバーから地域行事やコロナ感染状況、地域包括の研修会等の情報を貰い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はまだ開催できていませんが、書面等で事業所の取り組みの報告をするともに、助言をいただいています。また、可能な限り地域主催のケア会議に出席して関係性を築くよう心掛けています。	介護認定更新や介護事故報告、生活保護、成年後見制度等を相談し助言を貰っている。認知症初任者研修や認知症リーダー研修等に参加している。地域密着型サービス集団指導資料等を通して、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束廃止のための委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施しております。中途入職した際には都度、勉強会を開催し理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整え、お散歩希望の方とは一緒に外出し気分転換を図っています。	身体拘束緊急性3原則や事例11項目、身体的機能の低下、精神的苦痛等の意見交換をしている。不適切と思われる声がけ等を話し合い、「どうされましたか」等、職員間で具体的な声がけ等を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	高齢者虐待排除マニュアルを用いて、虐待の種類や通報義務、気づきシートで勉強会を実施している。着替え時や入浴の際にあざ等がないか、言葉による行動制限がないか等を確認し合い、虐待未然防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、後見人制度や日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡、書類のやり取りも職員が行っている為、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の中で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを説明しながら確認し、ご理解をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、毎月発行する「杜だより」で、ご利用者の最近の様子や写真を載せたものをお渡ししています。ご意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、時間を置かず改善に努めています。	家族からの要望等は、職員間で話し合い個々に対応している。食事量の相談を受け「刻み食」から「ミキサー食」に変更した。入居者毎の「ゆかりの杜だより」は、本人の表情を見ることが出来ると家族から好評である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティング、連絡ノートに記入するなどし職員の意見を聞き、事業所運営に反映できるように努めています。	管理者や職員は、気軽に話し合える環境である。オンライン面会やケアに関する事、備品購入等の提案は、改善に向けて話し合い反映している。個々の意見等は尊重し実現することで、職員の働く意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける制度があります。(ミミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ)また、ご利用者と一緒にイベント企画を行い、かつワークライフバランスを意識しながら職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしております。また、新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はお看取りの方がおられ、コロナの流行状況に配慮しながら可能な限り必要に応じて系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、知識をもらったり、評価をもらったりする機会を設けています。	地域包括支援センターや居宅介護事業所、福祉用具事業所等と情報交換し助言を貰っている。地域ケアよろず懇話会「宮城県の若年性認知症施策の取組み」講演会にオンラインで参加し、サービス向上に活かしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との事前面談を通し、ご本人の想いや考えを聴き取りながら、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう日々の関わりや会話を第一に心がけ具体的な要望をお伺いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に真摯に向き合っています。その際、事業所で何ができるのか多職種で意見交換、情報共有もしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、地域連携失、居宅介護支援事業所や利用していた施設から現状の情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。ご本人やご家族の想いに耳を傾け、状況に応じて必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がやりたい事やこれまで好きだった趣味活動、役割を通じて自分らしい生活を送れるようにしています。適宜職員間で話し合いの機会を持ち、その方を中心に私たちにできることは何か話し合い、入居者同士の関係性構築にも配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で生活の様子を伝えたり、毎月発行している「杜だより」に写真を添付してお届けしています。またイベントを入居者と一緒に計画・実施しています。気になったことや嬉しいこと等、小さな事でもこまめに報告の電話しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策のための体調を確認しながら、お部屋で面会して頂いています。また電話でお話を頂いたり、LINEやZoomを使つての面会のご案内も継続して行っています。	家族や親戚、友人等の来訪や電話でのやり取りは、入居者の楽しみに繋がっている。家族と馴染みの台原森林公園へドライブに出掛けしている。行きつけの美容室やかかりつけ医受診の際、馴染みの方と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や仕草等からご本人同士の関係性把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。可能な限り外出や季節行事をとおして交流できる機会を設け、職員が間に入りながら会話や穏やかに居心地よく過ごせるよう関わらせていただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族と電話や年賀状で近況をお伺いしています。入院先から転居されたご家族とは電話でのやり取りも継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から、またはご家族からご本人の想いを汲み取り、間を置かず職員間で情報共有しています。その方にとって居心地よく、自分らしく生活が継続できるよう努めています。	入居者一人ひとりの思いを汲み取り、自分で出来る事やしたい事等を実現できるよう支援をしている。「楽しく過ごしたい」思いは、「好きな音楽を聞く時間を作る」等、その人らしく笑顔で楽しく暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をしながらバックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう職員間でも情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・お手伝いが必要なことを把握し、できないところを補うように努めています。その方の過ごし方については個人記録や日々の申し送りで伝達し、健康状態なども含めて職員全員が把握できるよう努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を適宜確認しながら、ケアカンファレンスを開催し介護計画を作成しています。ご自分の想いを上手く表現できない方については、日常会話や活動等で情報収集に努め、ご本人の立場に立ち作成しています。	入居者の視点に立って、現状に即した必要な支援を盛り込んでいる。「新しい環境に慣れ、安心して生活を送りたい」要望は、職員と一緒に家事や入居者と話が出来るよう、食席に配慮する等を盛り込み作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてこまめに記録し、職員間で情報を共有しています。関わりや工夫、ご本人の状態に変化があれば職員間で都度、情報共有し、介護計画に反映させ実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やその時々状況に合わせて、買い物、通院、個別の外出の機会を設けています。急なニーズに対しては他ユニット職員とも連携し、柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板などから地域行事を把握したり、適宜、町内会長や地域包括支援センターの職員や民生委員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医へ受診を継続するとともに、ご家族の状況に合わせ、ご家族の対応が難しい場合には職員が付き添いを行っています。ご家族受診の際は、報告経過報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。	入居前のかかりつけ医受診は1名で、他の入居者は月2回の訪問診療である。訪問診療医や協力医療機関の看護職員、訪問看護師と24時間連携体制が整っている。専門医受診は、必要に応じて支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理について小さな変化を見逃さないよう少しの変化でも看護職員と情報共有しています。体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。また情報共有ノートに記入し、誰でもわかるような体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に事前に搬送先のご希望をお伺いしております。入院時のサマリー作成を通し、病院関係者と連携し安心して入院生活を送れるよう関係作りに努めています。退院の際は関係者と連絡を取り合いながら退院後の支援方法を職員と共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。人生会議を開催しその場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所でできる事を説明し医師や関係者とも連携を図りながら希望を伺っています。	看取り介護は主治医の指示に基づき、多職種間の連携でケアに努めている。主治医や訪問看護師と24時間連携体制を構築しており、家族や職員の安心感に繋がっている。家族の宿泊に対応し、家族と共に安らかに最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して訪問看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを重ねていきたいと思ひます。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。消防署へ通報等の手順を確認し実施している。身体状況に応じた避難誘導方法等の意見は、次に活かす取組みをしている。近隣住民等へ見守りの協力要請をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、相手の立場になって考えながら関わっています。不適切な対応になっていないか職員間でお互い確認し合ったり、ミーティング等で振り返る機会を設けています。	苗字か名前に「さん」付けで呼んでいる。これまでの生活習慣を大切に、人格を尊重し「出来る事はしてもらう」等、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けています。笑顔で話を聞く、命令口調にならないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中から、ご本人の思いや希望を把握できるよう努めています。またご家族への聞き取りやアセスメントを把握し、合理的配慮(筆談なども交え)を考えながら、自己決定できるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、その方の意向に沿うことが出来るよう支援しています。また、起床時間や就寝時間、朝食についても各々の時間に合わせて対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族からお好みの装いを伺い、化粧品も日ごろ使用していたものをご持参いただいたり在宅時と変わらないようサポートしています。その日の装いはご本人に決めていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは適宜ご希望をお伺いしながら献立を作成して、一緒に行える方とは調理からお片付けまで協力して頂いております。思い出の食事について(クリスマスや誕生日)伺いながら計画・実行に移すことで喜んで頂けていました。	芋煮会は、入居者の希望で仙台風と山形風の2種類作り、味の食べ比べで盛り上がった。おせち料理やおはぎ、ちらし寿司、オムライス等が喜ばれている。おやつや白玉ぜんざい、干し柿等を楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病や体重を考慮し、必要時は主治医に相談をしながら食事や水分量の調整を行っています。体調に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。栄養確保が難しい方には捕食で補うようご用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。食後の緑茶飲用も取り入れています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表から排泄サインや排泄のリズム、尿量も職員全員で把握できるようにし、その方に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。布パンツへの変更は可能かの検討も適宜行っております。	本人の出来ることを職員間で共有し、適切な声掛けや誘導、介助、見守り等で、トイレで排泄出来るよう支援している。夜間は安眠を妨げないように、パッドを変えたり、ポータブルトイレを置く等、個々に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら個々の状況に応じた予防に努めております。薬だけに頼らず水分量の確保や乳製品を取り入れて、自然排便ができるよう努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の希望に応じて入浴を行っています。夕食後に入りたいとご希望があった際は出来る限りご希望の時間に入れるように対応しています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、職員がお手伝いに入りながら一緒に準備ができるよう配慮しています。入浴剤についても好みのもので選んでいただき匂いや湯船の色を楽しんで頂いております。	本人の生活習慣等に配慮し、週2～3回で午前・午後入浴できるよう、個々の要望に応じた支援をしている。夕食後に入浴する方もいる。リフト浴があり、浴槽を跨ぐのが難しい方でも、湯船に浸かり気持ち良く入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中の過ごし方を考え安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には傾聴し、安心できるよう声掛けを行うと共に、寝る前の足浴も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、気になることがあれば適宜、看護職員や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎夕、晩酌を楽しみにされている方にはノンアルコールビールをご用意しています。またご本人のお誕生日には、ご本人に沿ったご希望に沿ったケーキやお好みのメニューを用意しています。ご本人の気持ちを尊重しながら掃除や洗濯たみ等の家事作業を通し、やりがいを感じていただいています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は昨年度より少しずつですが外出の機会は増えています。近所への散歩やご本人の希望を伺いながら少人数でのドライブ外出を実施しています。お花見や紅葉見学等、思い出の地を伺いながら参加して頂いていました。	ホーム周辺の公園まで散歩やコンビニへ買い物に出掛けている。四季折々に合わせて、東照宮へ初詣や安養寺公園へ八重桜、加茂神社へ紅葉狩りに出掛け、自然と触れる支援に努めている。本人の希望で松島へ出掛ける等、個別支援に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際、好きな物を選んで頂き、ご自身でお支払いできるようお手伝いしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に品物を選び、その場でお支払い内容を説明したり、一緒に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と連絡が取りたいというご本人からの要望があった際には、ご本人から電話できるように支援しています。手紙についても、年賀状やハガキにご本人の想いを代筆しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が準備して下さったCDやDVDと一緒に鑑賞しています。コロナウイルス感染予防対策の為、常時換気を行っていますが、室温が快適であるよう適宜確認しながら冷暖房の調整を行っています。毎月、季節に合った飾りを入居者の皆さんと一緒に設えています。	リビングは照明や温湿度管理等に気を配り、居心地よく過ごしやすい環境に努めている。壁には行事の写真や職員と一緒に作った手づくりカレンダー等を飾っている。季節毎に鏡餅や雛人形、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾り、四季を感じるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とテーブルを囲めるようにしていますが、その日毎に座る場所はご本人に決めていただいています。また陽当たりの良い場所にテーブルやソファを設置し、くつろげる空間作りに配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今までご自宅で使用していたなじみの物をご持参いただいています。また家族写真や趣味で作成した絵等の作品を掲示し、その方の個性に合わせたお部屋作りを支援しています。	使い慣れた家具や好みの生活用品を持ち込み、家族の写真を飾る等、落ち着いて過ごせるよう工夫している。身体機能に応じて、安全に生活できるよう、家具等の配置に配慮している。職員と一緒に掃除する方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みの家具や調度品を配置し、居室ドアには表札等を付けて、自室だとわかるようにしています。ご本人の力を活用できるよう動線や室内環境に配慮し個別に支援しています。		